



となりのしばふ シリーズ

ミュージアムとも近い、さまざまな分野の専門家をお招きし、お話をうかがっていくシリーズです。多彩なジャンルの知見を持ち寄ることで、ミュージアムを問い直すためのヒントを得るとともに、生涯学習社会における学びのあり方をひろく展望していきます。



シリーズに寄せて

今村 信隆(北海道大学文学研究院)

2022年度に始まった北海道大学プラス・ミュージアム・プログラムでは、これまで、主に2つの軸に沿って事業を展開してきました。1つは、多種多様な専門分野の知見をミュージアム〈に〉プラスすることです。これは、従来はミュージアムと縁遠かった領域の専門家をお招きし、積極的にミュージアムに足し算してみることを指しています。少しでも例を挙げて見ると、本プログラムではたとえば、財政学、会計学、ブランド論、アーカイブ学、災害社会学、観光学などの専門家と対話することで、今日のミュージアムに必要な事柄を発見的に学び合うことを目指してきました。もう1つの軸は、ミュージアム〈を〉プラスすることです。言うまでもなく、個々のミュージアムが基盤を置く現代の

地域社会は、さまざまな困難を抱えています。たとえば、人口の減少、高齢化、大規模災害などは、そこに住む人びとの幸・不幸に直結する喫緊の課題です。子育て、福祉、社会的孤立や孤独なども、人と社会の双方に関わる重要な問題だと言えるでしょう。近年では、教育格差や体験格差といった言葉も耳にするようになりました。そのような課題群に対してミュージアムには何ができるのか。この点について、本プログラムではこれまで、ミュージアムの現場で働く方たちとも語り合いながら考えてきました。

もちろん実際には、1つのレクチャー、1つのシンポジウム、1つのワークショップが、この両方に関係するというケースがほとんどだったと思います。たとえば、災害社会学やアーカイブ学の専門家と語り合いながら、大規模災害

に際してのミュージアムの役割を再考する。あるいは、まちづくりや観光の専門家から学びつつ、地域住民の幸福に想いをはせる。このようなイベントを積み重ねながら、ミュージアム〈に〉プラスすることと、ミュージアム〈を〉プラスすることとのあいだを何度も行き来し、考え続けてきた3年間でした。

最終年度にあたる2024年度の〈となりのしばふ〉シリーズもまた、こうした流れの延長線上にあるものにほかなりません。ここで目指したのは、まずは、異分野の専門家同士がフラットに対話することです。加えて、一連の対話を通じて、ミュージアムと社会との関わり方を再考したり、ミュージアムの専門性を掘り起こしたりすることが、本シリーズの大きな目標でした。

ミュージアム〈に〉プラスする場合であっても、ミュージアム〈を〉プラスする場合であっても、改めて考えなくてはならないのは、ミュージアムの側の確固たる専門性であると思います。学校ではない。病院でもない。図書館でも福祉施設でも音楽ホールでも体育館でも児童相談所でもない。ほかならぬミュージアムだからこそできることは何なのか。ミュージアムでなければできないことは何なのか。あるいは問いの組み立て方を少しだけ変えて、この館種のミュージアムだからできることは何なのだろうか、と考えてみてもよいかもしれません。動物園だからできること。美術館だからできること。歴史博物館だからできること。それはいったい何なのか。

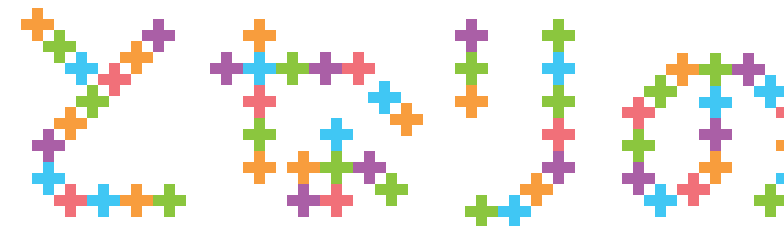
このような問いに導かれながら異分野の専門家と対話し、自分たちの専門性のコアをみつめ直してみることが、このシリーズの最終的な着地点だったわけです。



5回にわたる〈となりのしばふ〉シリーズでは、のべ9名の登壇者の方々をお迎えすることができました。

いや、「登壇者」という呼び方はふさわしくないかもしれません。本シリーズのゲストスピーカーは、壇上にあがり、マイクを独占し、特権的な発話者として場を支配する「登壇者」というイメージではないからです。むしろ、壇から降りて、靴すらも脱いで、芝生の上で語り合うようなスタイルが、わたしたちが掲げた理想でした。そうした理想が100パーセント実現できたとは考えていませんが、それでも同シリーズが、さまざまなヒントと学びに満ちた刺激的な時間であったことは間違いありません。

ゲストスピーカーの皆様と、語らいの場に加わってくださったすべての参加者の皆様に、この場を借りて御礼を申し上げます。



となりのしばふ1

📖 声が響く、知の森へ 📖 ―世界の図書館事情

今回の講師は、デンマーク、オランダ、アメリカ、日本などの事例から図書館のあり方を考えてきた、筑波大学教授の吉田右子先生。
図書館は、静かな、閉ざされた空間というだけで十分なのか。
これからの図書館は、個人やコミュニティを支えるための、もっと創造的な、もっと賑やかな空間であってもよいのではないか。
このような問いから世界の図書館をみていくことで、ミュージアムを含む文化施設のあり方が浮き彫りになってくるはずです。

日時／ 2024年9月7日(土)13:00～16:00
会場／北海道大学オープンイノベーションハブ
「エンレイソウ」メインラウンジ
※Zoomによるオンライン配信を併用
講師／吉田 右子(筑波大学図書館情報メディア系 教授)
司会・コーディネーター／今村 信隆(北海道大学文学研究院 准教授)
参加者のべ77名(オンライン配信、事後配信視聴者を含む)

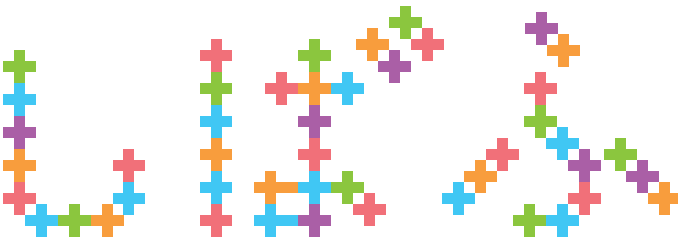


となりのしばふ2

📖 「かわいい！」だけじゃない 📖 ―動物園が生き物を通して伝えたいこと

動物園・水族館は生き物を扱っているという点が歴史系、自然史系、美術館などのミュージアムと最も大きな相違点ですが、展示における工夫、地域社会での役割、人々の興味関心の高い話題への応え方など、共通する課題も少なくありません。
また、ミュージアムと同様に、設立主体、規模、性格によって、運営のあり方、地域社会・利用者への関わり方なども異なってきます。
今回の「となりのしばふ」では、動物園・水族館の現場で直面する課題、ミュージアムの共通点、相違点について長崎バイオパークの末竹純氏を迎え、皆さんとともにディスカッションします。

日時／ 2024年9月29日(日)13:00～16:00
会場／北海道大学総合博物館 1階 知の交流ホール
※Zoomによるオンライン配信を併用
講師／末竹 純(長崎バイオパーク飼育展示課 学芸員)
司会・コーディネーター／卓 彦伶(北海道大学文学研究院 講師)
参加者のべ64名(オンライン配信、事後配信視聴者を含む)



となりのしばふ3

📖 本がつくる磁場 📖 ―惹きつけるキュレーション

今回の講師は、本とひととの関係を再考しながら、数々のディレクションを務めてきた、ブックディレクターの第一人者・幅 允孝氏。
本を通じて場をつくり、コミュニケーションをつくっていく幅氏の仕事からは、ミュージアム等の文化施設関係者も大いに学ぶことがあるはずです。
本やライブラリーに興味がある、という方も、お気軽にご参加ください！

日時／ 2024年11月9日(土)13:00～16:00
会場／北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 W201教室
※Zoomによるオンライン配信を併用
講師／幅 允孝(有限会社BACH代表取締役。ブックディレクター)
司会・コーディネーター／今村 信隆(北海道大学文学研究院 准教授)
参加者のべ89名(オンライン配信を含む)

となりのしばふ5

📖 動物保護と文化財保存の専門家が 📖 語る未来へのまなざし

日時／ 2024年12月1日(日)13:00～16:00
会場／北海道大学オープンイノベーションハブ
「エンレイソウ」メインラウンジ
※Zoomによるオンライン配信を併用
講師／飯間 裕子(釧路市動物園 獣医師)
高橋 佳久(北海道博物館 学芸員)
司会・コーディネーター／卓 彦伶(北海道大学文学研究院 講師)
参加者のべ51名(オンライン配信、事後配信視聴者を含む)

となりのしばふ4

📖 越境して語り合う― 札幌市内の文化施設

『文化的コモンズ』って何だろう。
この本の筆者の佐々木秀彦さんと、札幌市の3つの文化施設(博物館・劇場・ホール、図書館)のスタッフが越境して語り合います。
専門人材育成や組織のマネジメントに関することから、施設の役割の再定義は必要ないのかまで、地域にとって大切な文化施設のカタチを編み直していきます。

日時／ 2024年11月16日(土)13:00～16:00
会場／北海道大学オープンイノベーションハブ
「エンレイソウ」メインラウンジ
※Zoomを用いたオンライン配信を併用
講師／佐々木 秀彦(アーツカウンシル東京企画部企画課長)
浅野 隆夫(札幌市役所プロジェクト担当部長)
松本 桜子(札幌文化芸術交流センター SCARTS事業係長)
山崎 真実(札幌市博物館活動センター学芸員)
司会・コーディネーター／佐々木 亨(北海道大学文学研究院 特任教授)
参加者のべ75名(オンライン配信、事後配信視聴者を含む)

動物園では、野生動物との共存に対する関心が高まる中、環境教育施設としての役割が特に求められています。
また、博物館では、災害時における文化財保護や文化財の保存・活用に関する取り組みが重要視されています。
今回の「となりのしばふ」では、天然記念物であるタンチョウのレスキューと教育啓発活動に取り組んできた釧路市動物園の飯間裕子氏と、文化財保存科学の専門家である北海道博物館の高橋佳久氏をお招きします。
動物保護と文化財保存という一見接点のない現場から、動物園と博物館がどのように連携し、未来に向けた交差点を築けるのかを語り合います。